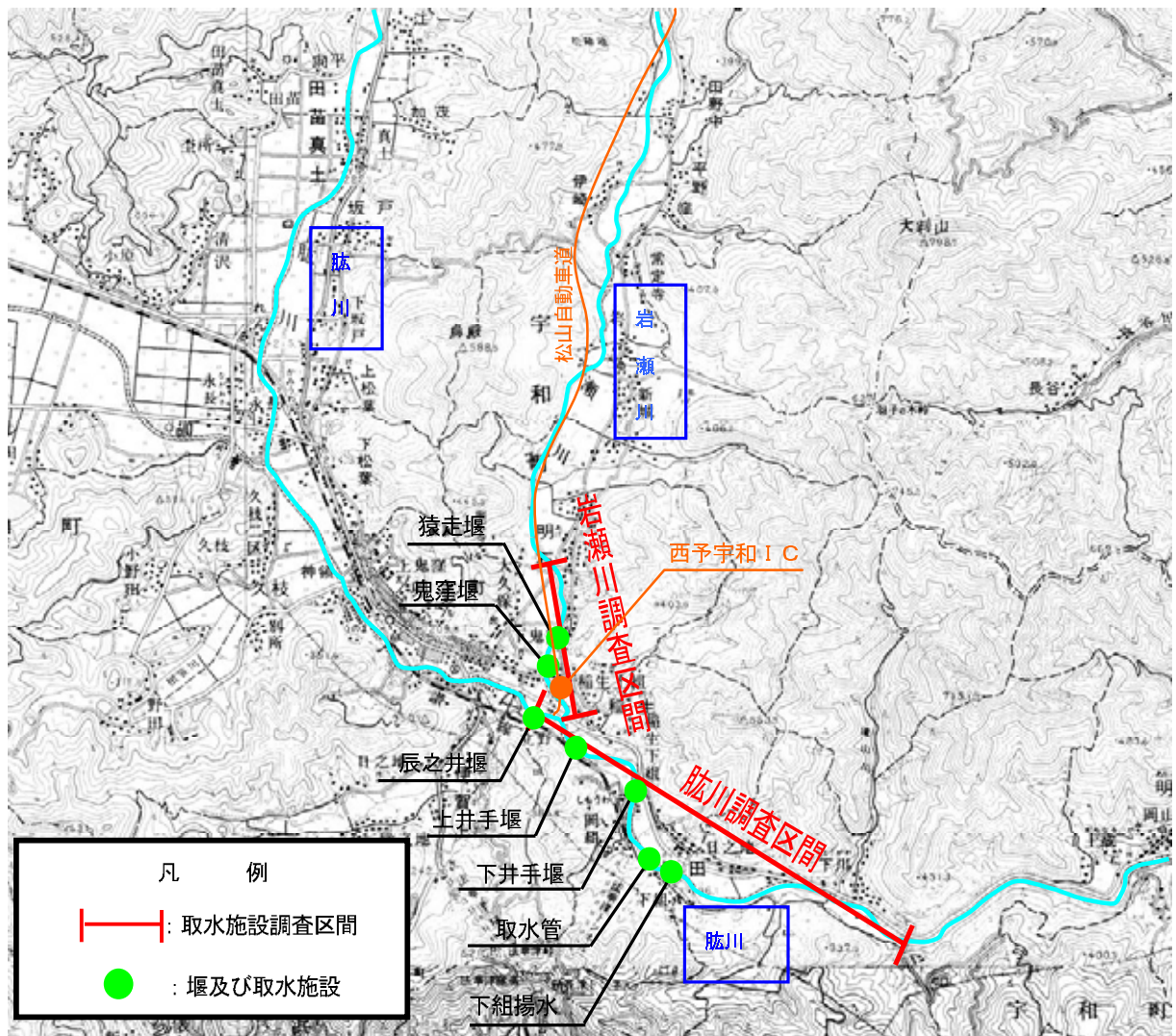


### 1.2.2 利水の現状と課題

肱川水系(上流圏域)では、古くから農業用水、主に稲作のための灌漑用水として許可水利および慣行水利として河川水が利用されている。圏域内の肱川では許可水利が1箇所、慣行水利が69箇所、岩瀬川では慣行水利が37箇所あり、そのうち整備計画区間には許可水利が1箇所、慣行水利が6箇所で行われている。

適正な水利用を図るため、水利関係者との連携・調整を行い、流況や取水量の現況把握につとめ、正常流量の検討をする必要がある。

また、この地域では取水施設の大部分を固定堰が占めており、治水対策との整合を図りながら整備を進めていくことが必要である。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。  
(承認番号 平19四複、第29号)

図-3 取水地点調査位置図

### 1.2.3 河川環境の現況と課題

肱川水系(上流圏域)はその大部分が宇和盆地に位置し、河道周辺には平地が広がっている。なかでも卯之町地区は、西予市の中心部であり公共施設や商業施設、住宅地として利用されている。また、周辺部は主に水田として利用されている。

河道内の植生については、ツルヨシ群落が広範囲に分布しており、他にミゾソバ群落、オオイヌタデーオオクサキビ群落、ネコヤナギやタチヤナギなどの低木群落も見られる。

魚類ではコイ、ゲンゴロウブナ、オイカワなど 20 種類が確認されており、オイカワやカワヨシノボリが多数生息しており、放流魚であるアユも確認されている。

今回の整備区間である肱川、岩瀬川の河川敷内のツルヨシ群落や河岸及び水際には、下表の様な注目種が確認されている。

項 目	種 名	カテゴリ (愛媛県レッドデータブックより)
植物相	ニッケイ	(準絶滅危惧種)
鳥類	ササゴイ	準絶滅危惧種
鳥類	ハイタカ	準絶滅危惧種 (準絶滅危惧種)
鳥類	ビンズイ	絶滅危惧Ⅱ類
鳥類	ホオアカ	準絶滅危惧種
鳥類	ノジコ	(準絶滅危惧種)
両生類	トノサマガエル	準絶滅危惧種
爬虫類	イシガメ	絶滅危惧Ⅱ類
魚類	タモロコ	準絶滅危惧種
魚類	ドジョウ	準絶滅危惧種
魚類	メダカ	絶滅危惧Ⅱ類、(絶滅危惧Ⅱ類)
底生動物	ナガオカモノアラガイ	(準絶滅危惧種)
昆虫類 底生動物	キイロサナエ	準絶滅危惧種

( )は環境省(庁)でのカテゴリを示す